

令和6年度 学校経営計画書

学校番号	1	学 校 名	沼津視覚特別支援学校	校 長 名	田 淵 尚子
------	---	-------	------------	-------	--------

1 目指す学校像

- ・幼児児童生徒が 『学びがいのある学校』
- ・外部の関係機関が 『頼りがいのある学校』
- ・保護者・保証人が 『通わせがいのある学校』
- ・地域が 『応援しがいのある学校』
- ・職員が 『働きがいのある学校』

(1) 教育目標 『自立する人を育てる』

- 【自立する人とは】
- ・《知》豊かな感性と考えをもつ人
 - ・《心》他者と自分を愛する人
 - ・《体》健康な体を保つ人
 - ・逞しく自らの未来を切り拓く人
 - ・必要な支援を依頼でき、それに感謝できる人

(2) 目標具現化の柱

- ア 視覚障害教育を中心とした授業力の向上と専門性の維持・向上
- イ 心身の健康の保持・増進とキャリア教育の充実
- ウ 地域への発信・理解推進・連携とセンター的役割の遂行
- エ 緊急時・発災時への対応と安全安心で魅力的な環境づくり
- オ 働きがいとワークライフバランスの維持

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア 視覚障害教育を中心とした授業力の向上と専門性の維持・向上	視覚障害に留意した「主体的に学び、思考を深め表現する授業づくり」	・「主体的に学び、思考を深め表現する授業づくり」に向けたグループ研修と一人一授業公開 ・他校の研修会や学習会に参加する機会の設定	研修で得た学びを指導に生かし、授業改善や授業力向上に繋がった教員 100%	研修 各学部
	視覚障害教育に必要な専門性の向上と指導の充実 (ICT 活用や情報保障を含む)	・必要な専門性を研修する機会（年4回以上）や情報を得る機会（年3回以上）の設定 ・視能訓練士と連携し、幼児児童生徒の個々の見え方に応じた指導や環境設定	・自身の専門性の維持・向上ができた教職員 90%以上 ・自立活動研修、視能訓練士との連携で得た知識や技能を授業、学校公開、日常生活等で活かすことができた教員 80%以上	自立活動
イ 心身の健康の保持・増進とキャリア教育の充実	将来をイメージし、幼児児童生徒の自己選択を意識した指導	・発達段階や年齢に応じた、キャリア選択に関する研修、情報提供（年3回以上） ・発達段階や年齢に応じた、自己選択の機会を設定した授業実践 ・個別面談で将来の話やそれにつながる現在の指導について保護者との共有	・キャリア教育について学んだことをもとに、将来をイメージし、幼児児童生徒の自己選択を意識した指導や保護者面談等で活かすことができた教員 80%以上	キャリア支援 各学部

様式第 1 号

	自他を尊重し合う心と体の教育	・性教育や道德教育の年間計画を基に自己肯定感につながる授業の実施。(年間 1 回以上) ・健康的な身体を作るための「運動週間」の実施。(各学年で年間 1 回、期間：1～2 週間) ・人権教育年間指導計画の作成とそれにつながる人権教育の実践と見直し。	・自分や仲間・友達の好きなおとところや良いところを教師へ 1 つ以上伝えることができる幼児児童生徒 80%以上。 ・体力が維持向上した幼児児童生徒 75%以上。 ・人権感覚を意識した指導ができたと感じる教職員 80%	体育保健 各学部 生徒指導
ウ 地域への発信 ・理解推進・連携 とセンター的 役割の遂行	超早期から成人までの切れ目のない教育相談の充実	・医療機関・保健センター等への理解推進・教育相談活動 4 回以上 ・共感的な雰囲気、安心と満足感を得られる教育相談	・医療機関・保健センター等の協力が得られた場合に調査し、理解推進・教育相談を受けて、「よかった」という回答が 70%以上 ・アンケートで、「よかった」以上をつけた相談者 80%以上	支援部
	本校と視覚障害について東部地区における発信と理解推進	・東部地区市町、障害福祉課、ハローワーク、関係機関への理解推進 (30 か所以上訪問) ・医療福祉教育担当者会、放デイ担当者会、体験教室などの実施 ・学校ホームページの新システムへの移行	・アンケートにより学校への理解が深まった割合が 80%以上 ・新システムを使用し、学校ホームページで情報を分かりやすく発信することができる。	支援部 教務情報 図書 各学部
	地域の方や外部講師等による社会とつながり合う授業や教育活動の実践	(小学部) 環境学習、詩を楽しむ会、花壇作り等の学校外の方と関わる機会の設定 (中学部) 花壇整備や学校内外での清掃活動などを地域の方と共に行ったり、活動の様子を発信したりする。 環境活動や器楽指導など学校外の専門家から生徒が学ぶ機会の設定。 (高等部) 地域やイベント等でのマッサージ奉仕の実施	(小学部) 活動を通して児童が学校外の方と関わりが持てたと感じる教員 80% (中学部) 活動を通して、生徒が地域の方や学校外の専門家から充実した学びを得られたと感じる教員 80% (高等部) 地域やイベント等でのマッサージ奉仕年 4 回以上	各学部
エ 緊急時・発災時への対応	一人一人が緊急時や発災時にどのように動くかわかり、実践的な緊急体制の整備	・場所や時間、状況を具体的に設定した実践的な緊急体制訓練や避難訓練の実施。(年度 1 回のプールでの緊急体制訓練)	緊急時や発災時に、自らの判断で自信を持って、組織的な緊急時対応や避難行動ができる	体育保健 生徒指導

様式第 1 号

応と安全安心で魅力的な環境づくり		練含む)	教職員 80%以上。	
	児童生徒が安全安心に活動でき、魅力的な環境の整備	・校内安全点検の実施（月 1 回） ・ヒヤリハット点検の実施（月 1 回） ・危険箇所及び改善事項への迅速かつ計画的な対応 ・対話を通した魅力的な環境整備	・学校環境の不備を原因とした事故発生 0 回。 ・校内で自分の好きな場所があり、伝えることができる幼児児童生徒 80%	体育保健 事務部
オ 働きがいとワークライフバランスの維持	専門性向上と授業準備ができる時間確保のためのタイムマネジメント意識の向上	・会議の時間厳守および提案や検討事項の明確化 ・定時退庁日の周知徹底	限られた時間内で効率良く会議・打ち合わせできたと思えた教職員 80%以上	管理職 教務課 各学部分掌課
	個々の強みを活かした風通しのよい職場づくり	・不祥事根絶研修等で学部等を超えた教職員グループでの話し合いの設定	職員同士で相談、協力し合えたと思えた教職員 80%以上	管理職